

## プリンセス・アズィーザと紫のランの花

### 2.

冬のある日、ザハラ城では、ふわふわの髪をした、とってもかわいい女の子の赤ちゃんが産まれました。

王様と女王様は、アッラーの99の美名が大好きで、その中でも特に、アル＝アズィーズ（強いお方）と言うお名前が好きだったので、可愛い赤ちゃんに、「プリンセス・アズィーザ」という名前をつけました。

### 4, 5.

プリンセス・アズィーザは、とてもきれいなお姫様になりました。馬に乗るのがとても上手で、よくお城の外にも出かけました。でも、お出かけする時には、いつもヒジャーブをして、美しい髪の毛を誰にも見られないように、守っていました。プリンセス・アズィーザはこう言っていました。

「アッラーは、女の子はヒジャーブをするように、と教えてくださったから、ヒジャーブをしていれば、アッラーが守ってくれるから、とっても安心なの。」

### 6, 7.

ある日、プリンセス・アズィーザのお母様の女王様が病気になりました。お医者様は言いました。「女王様のご病気はとても難しい病気です。たった一つ、治す薬があるのですが、それは手に入れることが難しい薬です。」

プリンセス・アズィーザは、お医者様に尋ねました。

「そのたった一つの薬は、どこにあるの？」

「プリンセス・アズィーザ、それはとても遠くの北の森にある、大変珍しい紫色のランの花から作る薬です。その紫色のランが手に入れば、私が薬を作ることができるのですが、だれも見つけることができないのです。」

### 8, 9

プリンセス・アズィーザは、お父さんの王様に言いました。

「お父様、私に、紫色のランの花を探しに行かせてください。お母様のために、できることをしたいんです。」

「プリンセス・アズィーザ。紫色のランの花は、遠い北の森にしかない、そんなところまで一人で行くのはとても心配だ。どうしても行くと言うのなら、アッラーにドゥアーをしてから行くといい。でも、十分に気を付けて行くんだよ。プリンセス・アズィーザ、強い子よ、アッラーがあなたをお守りくださいますように。」

プリンセス・アズィーザは、アッラーにドゥアーをして言いました。「ビスミッラー タワツカルトゥアラッラーヒ ワラーハウラ ワラー クウワタ イッラービッラー（アッラーのお名前において。私は、アッラーにお任せしました。アッラー以外にどんなお力も強さありません。）」ドゥアーをすると、プリンセス・アズィーザの心は、とても安心して、心配も消えました。

### 10. 11.

プリンセス・アズィーザが紫色のランの花を探して、北の森を歩きまわっていると、道に迷ってしまいました。

すると突然、白いおひげのおじいさんが、目の前に現れました。プリンセス・アズィーザは、おじいさんに尋ねました。

「紫色のランの花の場所を教えてくださいませんか？」

おじいさんは言いました。「もちろんだとも、お嬢さん。でも、それはとても危険な崖の上にある、大丈夫かい？」

プリンセス・アズィーザは、力強く言いました。「はい、アッラーがお守りくださるから、きっと大丈夫です、インシャーアッラー。」

### 14. 15

おじいさんに道を教えもらったプリンセス・アズィーザは、ついに、崖の上に、紫色のランの花を見つけました。とても高い崖の一番上です。プリンセス・アズィーザは、「ビスマッラー」と言うと、注意深く、険しい崖を登り始めました。半分ほど登った時です、「あっ！！」足をかけた岩が崩れて下に転がり落ちました。手で岩をつかみ、なんとか踏みとどまると、プリンセス・アズィーザは、心の中でアッラーに祈りました。「アッラー、どうかお母様の病気を治すために、私を紫色のランの花に辿り着かせてください！私はお母様のために、どうしてもあ花を持って帰りたいんです！」するとその時です。プリンセス・アズィーザのヒジャーブが、風に舞い上がりました。

#### 16. 17

ヒジャーブと一緒に、プリンセス・アズィーザの体はふわっと持ち上げられると、プリンセス・アズィーザは、崖の上にふわりと降り立ちました。まるで天使が運んでくれたみたいに。

「スプハーナッラー、ヒジャーブのおかげで助かったわ。アルハムドゥリッラー、アッラー、本当にありがとうございます。」

プリンセス・アズィーザは、紫色のランの花を手にとると、アッラーにお礼を言いました。

「アッラー、いつも私のドゥアーを聞いてくださってありがとうございます、アルハムドゥリッラー。早くお城に戻って、お医者様に薬を作ってもらわないと。アッラー、どうか私が無事に帰れるように、助けてください。」ドゥアーをすると、プリンセス・アズィーザは、元来た道を迷わずにお城に戻ることができました。

#### 18. 19

お城に着くと、プリンセス・アズィーザは、紫色のランの花をお医者様に渡しました。「マーシャーアッラー、プリンセス・アズィーザ、よく見つけましたね。本当にありがとうございます。これで、すぐに薬を作ります、インシャーアッラー。」お医者様は、急いで薬を作ると、女王様に飲ませました。女王様は、すぐにすっかり元気になりました。

#### 20. 21

「私のかわいいプリンセス・アズィーザ、私のために、危険な崖から紫色のランの花を取って来てくれて、本当にありがとうございます。ジャザーキッラーフハイラー☆アッラーが、あなたに善いご褒美をくださいますように。」

「お母様のためなら、私なんだからするわ。だって、お母様のことが大好きなんですもの。アルハムドゥリッラー、アッラー、お母様を治してくれて本当にありがとうございます。」プリンセス・アズィーザはにっこり微笑みました。

#### 22. 23

プリンセス・アズィーザが、女王様のために遠い北の森から紫色のランの花を取って来た話は、すぐに町中に広まりました。町の人達は、母親思いで、親孝行なプリンセス・アズィーザのことを、とって誇りに思いました。町中の子どもたちは、プリンセス・アズィーザを見本にして、自分のお母さんを大事にするようになりました。

クイズ：

1. プリンセス・アズィーザは、紫色のランの花を取りに行きましたが、とても高い崖の上にあったので、足を滑らせて、落ちてしまいました。
2. プリンセス・アズィーザは、アッラーにドゥアーをしたら、ヒジャーブが風に舞って、崖の上にすぐに着くことができました。
3. 紫色のランの花で薬を作ると、女王様はすぐに治りました。